

アクスル、ハブの点検整備の重要性について

トレーラ走行装置の点検整備項目として、定期点検及びメーカーが推奨する点検箇所の重要性についてお知らせします。特に長年使用し続けた車両は、部品の劣化が進行している場合がありますので点検整備により、安全を確保してください。

1. アクスル、ハブの点検の重要性について

アクスル、ハブの劣化が進行すると、当該車両の走行安全性が低下するおそれがありますので、入念に点検を実施して頂きますようお願い致します。

アクスル、ハブの安全性を維持するため、摩耗、損傷、亀裂などがないか、目視だけではなく染色浸透探傷剤（レッドチェック、カラーチェック等）を用いた染色浸透探傷検査等による点検を行ってください。

2. 長年使用し続けたトレーラの点検要領【点検整備時期 12月毎】

（長年使用し続けたとは、使用開始から5年以上経過したことを言う）

- 1) ハブの摩耗部と未摩耗部との段差（図1のA部）をシクネスゲージにて測定する。

図3. 2箇所（図1のA部）の未摩耗部に直定規を渡し、外側の脇にて段差を計測する。

図4. 1箇所（図1のA部）の未摩耗部に直定規を密着させ、脇にて段差を計測する。

【いずれかの方法で全てのホイール・ボルト部を計測する】

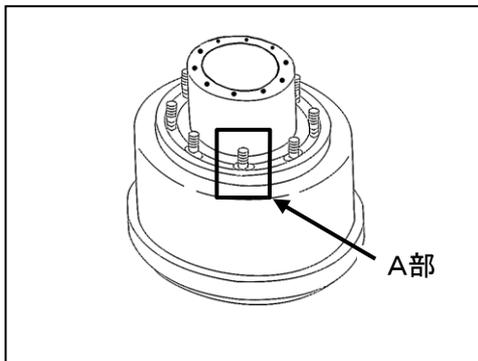


図1 ハブ、ドラム

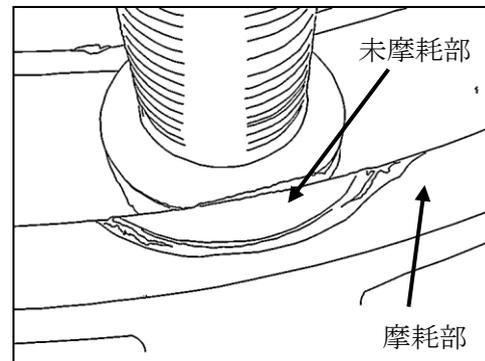


図2 A部詳細

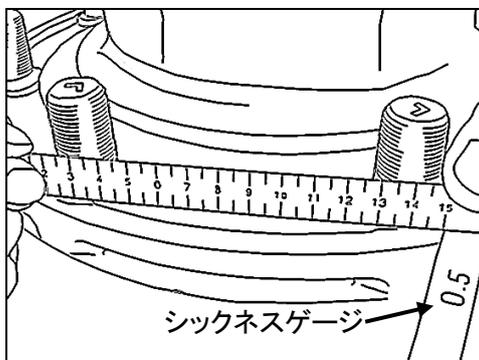


図3

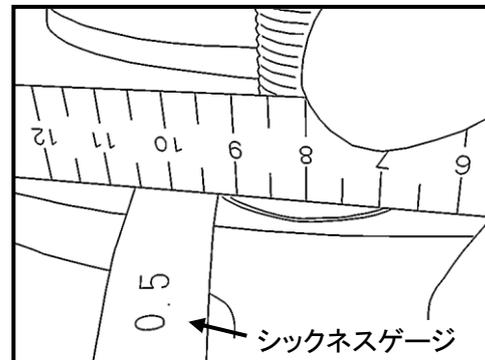


図4

ホイール・ボルト部摩耗の整備基準については各メーカーに問い合わせてください。

NO. 33	発行日 2011年9月	改定日
アクスル、ハブの点検整備の重要性について		

- 2) ハブ単体状態で亀裂、損傷、変形などがいないかを点検する。
特にハブ・フランジ付け根部両面に亀裂等がないかを目視だけではなく、染色浸透探傷剤(レッドチェック、カラーチェック等)を用いた染色浸透探傷検査等による点検をする。(図5)
- 3) ホイール・ナットにISO方式を使用しているハブにあっては、ホイールとのはめ合い部に摩耗等の異状はないか、特にホイール取付け状態にガタ等の異状がないか目視により点検する。(図6)

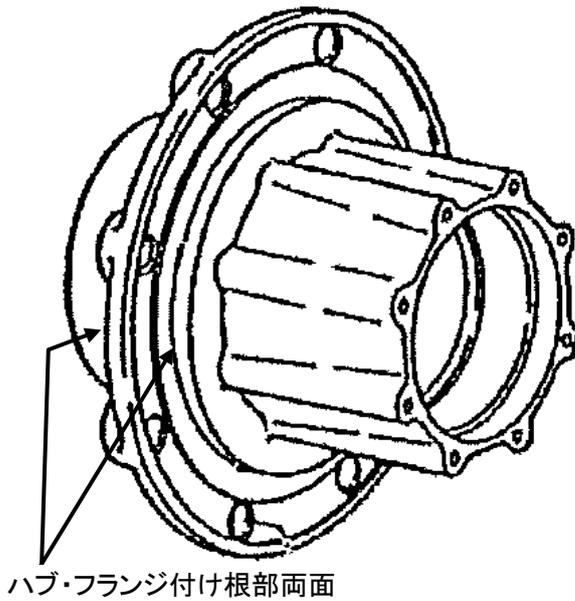


図5.ハブ単体

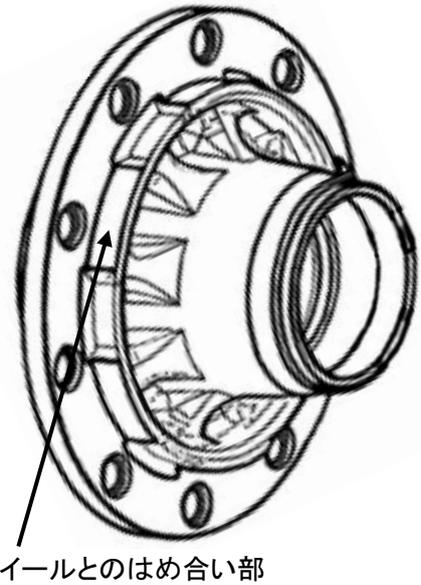


図6. ISO方式ホイール・ナット用ハブ

ホイールとのガタが大きい場合、ホイール・ボルトの荷重負担が多くなりホイール・ボルト折損の原因となることがあります。